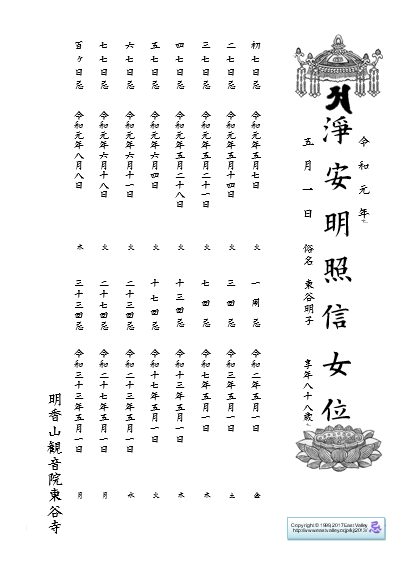
Q.png忌日表 ***for Word 2013***

***version 3.3.6***



「忌日表 for Word 2013」は、亡き精霊の初七日～五十回忌の忌日を自動計算するMicrosoft Office Word 2013用のテンプレートです。右のようなレイアウトを提供します。

このプログラムはMicrosoft Word 2013で動作します。対応OSはWindows 7, Windows 10 です。

その他のOSでの動作は確認しておりませんが、Word 2013 が動作するOSならば動作するでしょう。

なおこのバージョンはWord2013用ですが、Word 2016 でも動作します。

「令和」に対応

新元号「令和」に対応済みです。

プロパティ画面で、「令和」と設定する必要がある場合もあります。

忌日表 for Word 20013のインストール

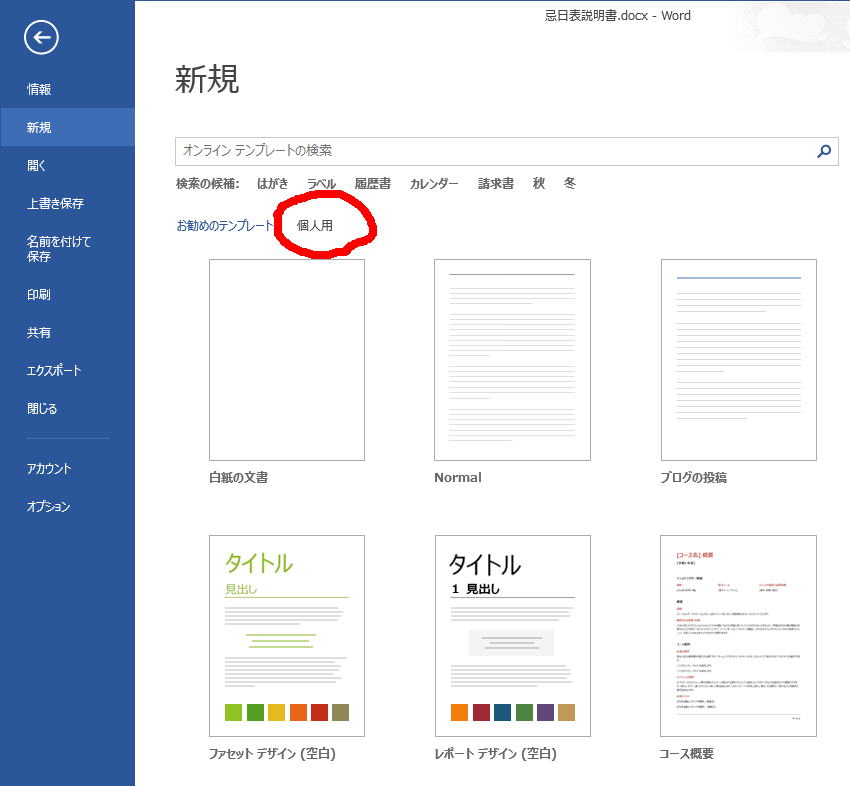
ダウンロードしたファイルを実行するとインストールが始まります。あとはそれにしたがってください。インストールが完了したら、Word を起動してください。忌日表はWordのカスタムテンプレートとして提供されています。

　Word 2016 や Office 365 のワードの場合は、自動インストールができない場合があります。その場合は、<http://www.eastvalley.or.jp/kjt2013/> に手動インストールの方法が書いてありますので、参照してください。

忌日表を新規作成する

Word2013の画面から[ファイル][新規]とクリックします。

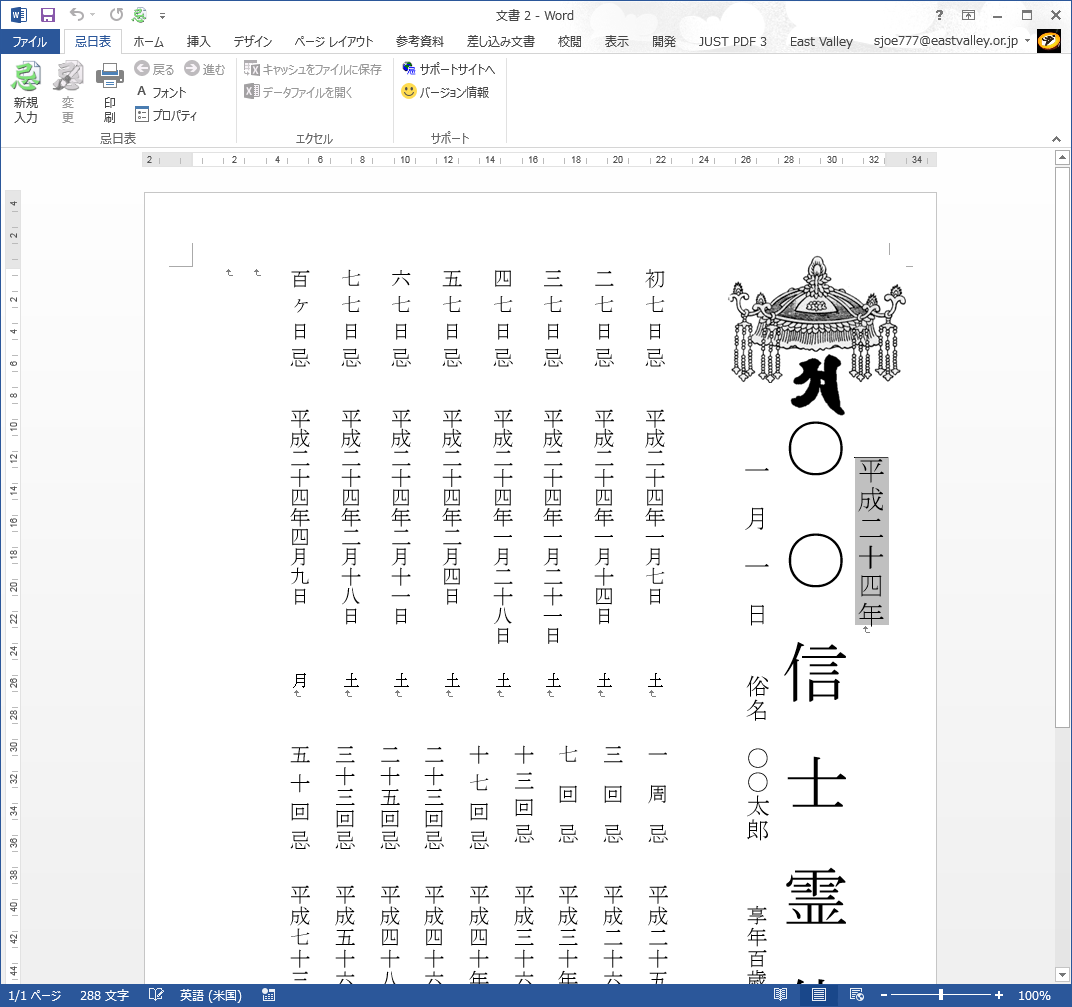
以下のような画面になりますので、赤丸のしてある「個人用」と書かれたところをクリックしてください。



すると今度は以下のように忌日表のテンプレートが見えますので、これをクリックしてください。



すると、次のような新規の忌日表文書が作成されます。

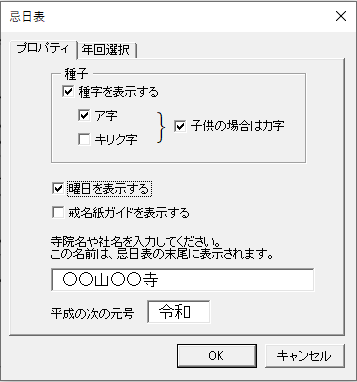


[忌日表タブ]

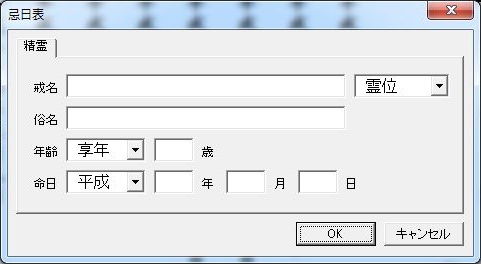


* デスクトップにkjt というフォルダが残り、その中に説明書（このファイル）とインストーラ(EvMacroK.exe) があります。これらはプログラムの実行には必要ありません。説明書とアンインストールの必要がない場合は削除しても構いません。

**忌日表の使い方**

初めに寺院名（社名）、種字などを設定します。忌日表タブの「プロパティ」をクリックしてください。すると以下のようなダイアログが現れます。この設定は一度設定しておけば、以後毎回反映されます。なお、平成の次の元号は「令和」と設定してあります。

次に、戒名・俗名・年齢・命日などの精霊のデータを入力します。「新規入力」ボタンをクリックしてください。



ここにデータを入力して、「OK」ボタンをクリックすると、命日から各忌日を自動計算し、忌日表文書が完成します。

※**年齢と日付の数字は必ず半角の数字を用いてください。**

フォントを変更したければ、「フォント」ボタンをクリックして変更してください。

「印刷」ボタンをクリックして印刷したり、あるいは文書に名前をつけて保存したりすることができます。

忌日表のキャッシュ機能

忌日表 for Word 2013 は一度入力したデータを内部的に保存しています。これをキャッシュといいます。「戻る」「進む」ボタンを使って過去のデータを表示させることができます。キャッシュは20件まで保存しています。それ以上のデータが入力された場合は、古いものから順に消えていきます。

キャッシュをファイルに保存

「キャッシュをファイルに保存」ボタンをクリックすると、使用中に入力されたデータをファイルに保存することができます。これにはMicrosoft Excel がインストールされている必要があります。クリックするとExcelが起動して、キャッシュに保存されているすべてのデータをExcelに転送し、保存ダイアログが表示されます。ここで自由に名前をつけてExcel形式のファイルとして保存してください。

データファイルを開く

保存したファイルを開くには、「データファイルを開く」ボタンをクリックします。これにはMicrosoft Excel がインストールされている必要があります。クリックすると内部的にExcelが起動して、そのデータを「忌日表」に表示します。「戻る」「進む」ボタンをクリックして全てのデータを表示させることができます。

　開くことができるファイルは、エクセル形式のファイルの他、CSV形式でも可能です。ただし、その内容は以下のようになっている必要があります。

1行目の各列には項目名が必要です。項目名は「戒名」「俗名」「年齢」「命日」の４つです。必ずしもこの順番でなくてもかまいませんが、項目名はまったく同じものでなければなりません。

2行目以降には実際のデータが必要です。年齢は数値です。漢数字は使えません。命日はエクセルが日付と認識できるものにしてください。

例えば、エクセルで以下のように表示されるようなデータならOKです。



　上記のルールに従っているファイルであれば、エクセル上で独自に編集したファイルでもかまいません。CSV形式のファイルの場合は、テキストエディタで編集したものも開くことができます。なお、戒名の項目に空白を見つけた時点で、忌日表はデータの終了とみなします。

他のアプリケーションから忌日表を開く（開発者向け）

オートメーションを利用して他アプリケーションから忌日表を呼び出すことができます。例えば、Microsoft ExcelやAccess などをカスタマイズして、ボタンクリック一発で忌日表を開くことができます。ExcelやAccess 以外でも、オートメーションを利用できる開発ツールならば使用可能です。戒名データを管理するソフトを開発している方は挑戦してみてください。

オートメーション用インターフェースは以下のように定義されています。

sub executeKJT( Kaimyo as Variant, Zokumyo as Variant, Age as Variant, Meinichi as Variant )

引数の解説

Kaimyo 戒名。文字列型。

Zokumyo 俗名。文字列型。

Age 年齢。数値型。

Meinichi 命日。日付型、もしくは日付を表す文字列。（yyyy/m/d 形式を推奨）

忌日表本体である、テンプレートファイル(\*.dotm)はオートメーションでは使用できません。

内容が同じ文書ファイル(忌日表2013.docm)を用意しましたので、オートメーションで呼び出す場合はこちらのファイルを使用してください。

　Microsoft Excelでの具体的なコーディング例はサンプルファイル（オートメーション.xlsm）をご覧下さい。

忌日表 for Word 2013のアンインストール

EvMacroK.exeを実行するとインストーラが起動します。そこにアンインストールボタンがありますので、それをクリックするとアンインストールできます。レジストリに保存された忌日表に関わる内容も消去されます。

サポート・使用条件など

このソフトウェアはフリーウェアです。使用者は自由に使用できます。 雑誌やネットなどで再配布する場合は、かならず事前に連絡を下さい。無断の再配布はご遠慮ください。また再配布の際に、配布形式（圧縮ファイルの内容）を変更することは固くお断り致します。

このソフトを使用して何らかの損害があったとしても、当方ではまったく責任を負わないものとします。著作権は、East Valleyにあります。

サポートサイトは以下の通りです。

URL : <http://www.eastvalley.or.jp/kjt2013/>

Copyright(C) 1998-2019 East Valley.